

平成22年度 第2回

特別合同授業

講師 山折 哲雄 先生 演題「十七歳からの死生観」



10月26日(月)、午後1時25分より本校体育館で平成22年度第2回特別合同授業が開かれました。講師に宗教学者山折哲雄先生をお呼びし、「17歳からの死生観」という演題で御講演頂きました。

初めに、ご自身が僧侶の家に生まれ、母方の実家が岩手県花巻にあること、その関係で、一時宮沢賢治の生まれ育った町、花巻で暮らした体験をお話になりました。宮沢賢治が当時、花巻の町の人々から変人・狂人扱いされていた話、賢治の書き残した童話をもとに、「他者を犠牲にしなければ生きていくことが出来ない自分」に強烈な「罪」の意識を持ち続けた賢治の特異性をご説明になりました。「誰かが犠牲になることで誰かが生き残る世界」を強烈に意識し、生をその究極の相から凝視する姿勢の困難さと必要性について話が続きました。

講演の後半では、賢治の童話や詩にしばしば描かれる「風」をテーマに講演されました。宮沢賢治が「目に見えるもの」しか信じない科学に従事しながら、その極めて鋭敏な感性ゆえにリアルに目に見えない「別の世界」を感じ、それを描くことが出来たことを説明されました。賢治が描いた「風」はここにはない目には見えない世界から吹いて来るものであり、その風に乗って靈魂がこの世に訪れ、その風に乗ってこの世からあの世へと行くこともできる「風」であると話されました。最後に現代の日本人が見失ってしまったもの、それが持っていた意味について話されて講演は終わりました。

御講演後、数名の生徒が質問に立ちましたが、一人一人の生徒に非常に丁寧なお答えを頂きました。一見して若者にとって無縁な「死生観」を問う先生の話に本校の生徒が非常に敏感に反応し、共感を示したことが強く印象に残る講演となりました。山折先生は講演会后、校長室で「死」をテーマにした総合学習に取り組む1年生グループの質問に対しても親切に答えてくださいました。

全く御高齢を感じさせないしなやかで颯爽とした佇まい、単身、金沢の本校にふらりと立ち寄られて、ふらりと京都に帰って行かれた先生の姿は、将に「風の又三郎」のようで、学校に一陣の風が吹き抜けて、生徒が激しくその風に揺れ動いた一日になりました。